

序 言

『言語と文明』第12巻が刊行の運びとなりました。

本研究科には、日本語教育学専攻、比較文明文化専攻、英語教育専攻の3つの専攻があります。それにふさわしく、本巻には、学生の投稿を含め、言語、言語教育、文明文化、社会など、さまざまな切り口から書かれた多彩な論文が掲載されています。また、平成25年度に提出された博士論文の要旨と修士論文の題目一覧も掲載されています。『言語と文明』は、専攻や分野を超えた積極的な議論の場を提供し、本研究科の研究・教育の成果を報告するという役割を担っています。近年は麗澤大学学術リポジトリ (<https://reitaku.repo.nii.ac.jp/>)も整備され、WEB上での本誌掲載論文の閲覧カウント数も多くなってきました。これからも本誌を通じての研究科の学術的な発信を充実させていきたいと思えます。

本巻には、平成25年11月に亡くなられた坂本比奈子先生（麗澤大学名誉教授、享年77歳）を偲ぶエッセイと特別寄稿が掲載されています。坂本先生は、本研究科設立時（平成8年）のメンバーとして、タイ語を中心とする研究と大学院生の教育に尽力され、平成16～17年度には研究科長としても活躍されました。先生は、言語学、アジア、言語情報処理という日本語教育学専攻の設立理念の「総合学習の場」として、9回にわたって少数民族語の現地調査研修を行われました。その様子は、先生がご定年に際して執筆されたエッセイ「回想」（本誌第7巻、pp.83-84）にも書かれています。その中で先生は、危機言語としての「ムラブリ語」の研究者が出なかったことを「心残り」と書かれています。本巻の特別寄稿「改訂版『ムラブリ語テキスト』」は、先生のそのような思いに応える形で執筆されたものです。先生のご冥福を心からお祈りいたします。

言語教育研究科長 黒 須 里 美